

## 「校長室の窓から」

<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/nishiwakikita-hs/>

令和8年(2026)6月16日(火)

第15号 発行：隈元 優一

☎0795-22-5850/FAX：0795-22-7359

### すべての子どもたちが輝く学校を目指して～特別支援教育 校内研修会より～

6月11日(木)「発達障害の理解と指導・支援」をテーマに兵庫教育大学大学院井澤信三教授をお招きし、校内研修会を開催しました。今回は、その研修から得た大切な視点と、本校の教育方針について共有させていただきます。

#### ■ 「一人ひとりのグラデーション」を大切に

現代の教育現場において、発達障害は明確な境界線で区切られるものではなく、誰もが持ち得る「個性のグラデーション(連続体)」として捉えられています。「片付けが苦手」「うっかり忘れてしまう」「強いこだわりがある」といった特性は、多かれ少なかれ誰にでもあるものです。大切なのは、診断名で決めつけるのではなく、「その子が今、何に困っていて、どんなサポートを必要としているのか」を丁寧に見極めることです。



▲ 研修会の様子(図書室)

#### ■ 弱みを補い、強みを活かす

研修の中で「特性は決して悪いことばかりではない」というお話があり、注意が散漫になりやすい子は、裏を返せば「抜群の行動力を持つリーダー」になれる可能性を秘めています。また、こだわりが強い子は、自分が納得した時に驚くべき集中力を発揮します。

学校の役割は、つまずきやすい部分(文字の読み書きや提出物の管理など)をタブレットの活用や事前の環境調整といった「工夫」で補いながら、子どもたちの持つ強みを最大限に引き出すことです。

#### ■ 本人の「価値観」に寄り添う



▲ 兵庫教育大学大学院 井澤信三教授

多感な高校生に対し、大人が「ルールだから」「いいからやりなさい」と押し付けても心には届きません。私たちは、子ども自身が大切にしている「好きなこと」「将来の夢」「部活への想い」をまず受け止め、そこに紐づけながら「じゃあ、今何を頑張るべきか」を一緒に考え、納得して一歩を踏み出せるような関わりを大切にしていきます。

こうした取組は、特別な支援を必要とする生徒だけでなく、すべての生徒にとって「分かりやすく、安心できる学びの環境」を生み出します。いわゆるユニバーサルデザインの考え方を基盤としながら、本校はこれからも、一人ひとりの違いを尊重し、誰もが自分らしく輝ける学校づくりに取り組んでまいります。